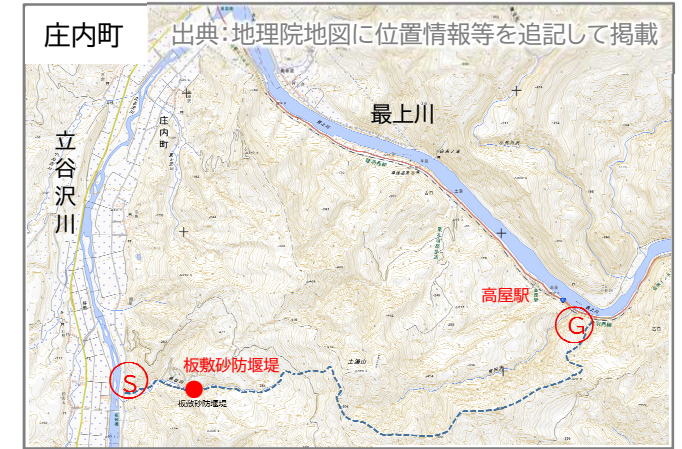


いにしへの板敷山古道

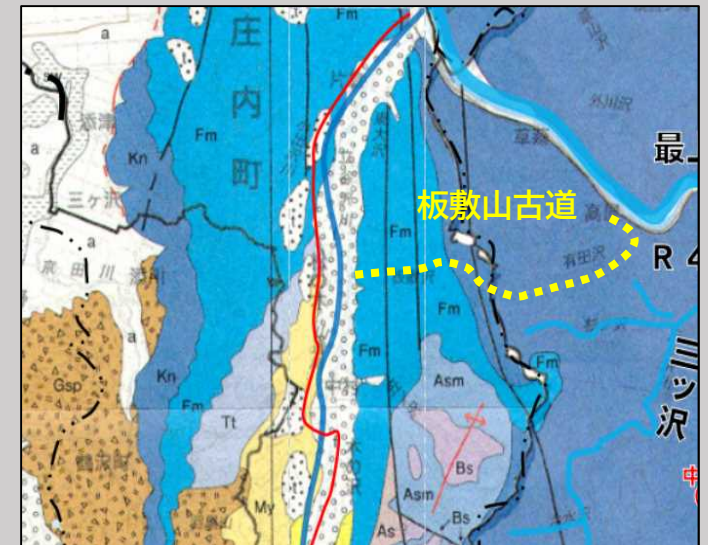
[板敷山古道]は、庄内町(立谷沢川)から戸沢村に抜ける、かつての陸の交通路です。最上地方と庄内地方の流通は舟運が盛んでしたが、古来より”板敷越え”と呼ばれる険しい最上峡をこえる陸のルートがありました。

立谷沢川から板敷沢に沿って上流へ向かうと、めずらしい円筒形の砂防ダム(板敷砂防堰堤)の脇をとって尾根にでます。尾根沿いに南へ進み戸沢村にはいると道はほとんどなく、複雑な地形のブナ林の中を進みます。最上川に近づいてくると、樹齢千年を超える杉の大木が立ち並び、不思議な雰囲気醸しています。

(注) 現在ほとんど道は残っておらず、迷いやすいため、ガイドなしで行くことは困難です。



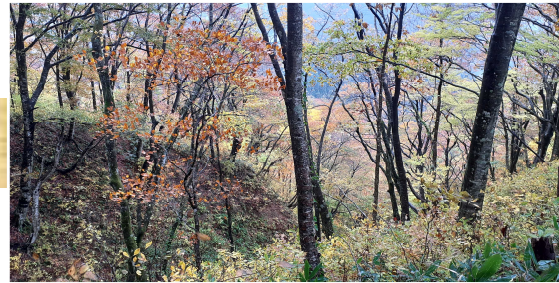
[地質図] GEO map を歩こう



Fm 古口層 (泥岩～凝灰質砂岩) 中新世後期
Kn 草薙層 (硬質泥岩～酸性凝灰岩～砂岩) 中新世中期

スタート

R4.10.29
8:00



ゴール

最上川到着

神代杉(村の木)
最上川峡谷地帯に自生する杉で、古来より土湯杉、仙人杉、山ノ内杉と呼ばれてきた。樹齢一千年はゆうに越えていると思われる老木が多い。樹形は雪害風害など色々な要因が重なってタコ足状に分岐し、杉とは思われない特異な形状をしているので有名である。

戸沢村文化財保護委員会